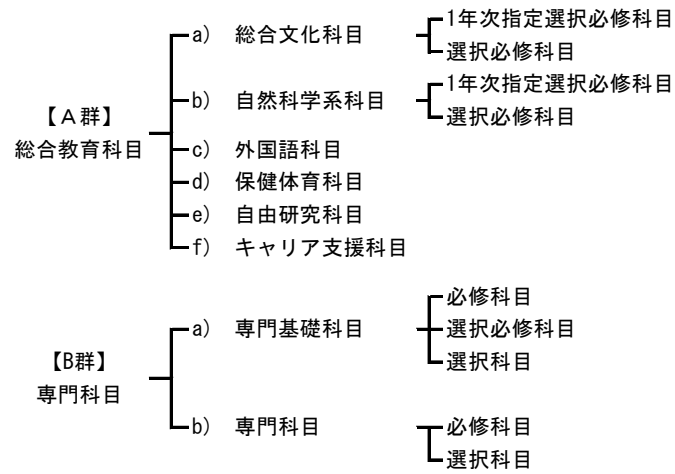


◀2018年度(平成30年度)入学生用▶

建築学部

授業科目履修課程表

◆教育課程◆



建築学部で何を学ぶか

建築学部は、工学をはじめとする人文科学、社会科学や芸術などの幅広い学問分野の基礎教育と充実した教養教育を実施している。学生諸君が人間と社会、科学技術を多様な視点から捉える目を養うためである。そして、建築学部は、学生それぞれの個性を重視して専門的な能力を引き出し、実践的かつ総合的な教育により伸ばすことで、建築と都市環境の創造・再生、および、持続型社会を支える科学技術の発展を中核的に担う専門家を養成する。そのための素養を十分に身につける教育プログラムも準備している。

また、新たに形成されつつある建築関連の諸分野に対し、学生が今後求められる専門家となるためには、現実の建築に関係する現象を正しく認識する観察力や分析力が必要不可欠となる。そのため、建築学部は、学生が実験・実習・演習などによる課題解決の経験を通じ、これらの素養を十分に養えるよう図っていく。さらに、実社会における建築の設計者や技術者としての役割を体感させることも重視し、学生にインターンシップによるものづくりの現場への参加機会や、実社会で活躍している講師による特別講義の受講機会などを設けている。学生は、それにより、広範な知識を身につけ、社会において果たすべき建築の専門家としての役割を理解することができるようになるだろう。

建築学部は、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科による3学科体制により運営されている。

まちづくり学科では、地球規模の大きな社会状況の変化のもとで、これから我々がもっと快適に住み続けられるための「まち」の新しい姿について学生自身が考え、身近な「まち」に関わる様々な視点（つくり手・住まい手の両方からの視点）を獲得する。多角的な「まち」の将来像を構想し、実現していく素養を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

建築学科では、安全で快適な生活の場の構築を目的として、大量生産・大量消費時代の新規供給中心の建築ではなく、安全で環境負荷の少ない生活環境を実現する建築の考え方を教育の中心に据えている。学生は、これからの新しい建築のあり方を規定するための高度な要素技術（計画、構造、設備、生産）を身につけ、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

建築デザイン学科では、単に美しいだけではなく、機能的にも優れ、快適で使いやすい、人間のための建築デザインとは何かを学生自身が考えて、新しいデザインのあり方を創造・発信することを目指す。さらに、環境への配慮や人間の生活の質（Quality of Life）の向上も考慮した建築の設計・提案を行う能力を身につけて、持続型社会を支える科学技術の発展に寄与するための方法を習得する。

このように、学生が、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科のいずれかの就学経験を通じて、卒業後に、新時代の課題を適切に判断し、身につけた専門知識・技術を生かす指導的な役割（コーディネーターやマネジメントなどの役割）を果たせるような仕事に就くことを、建築学部としては目指している。活躍する分野としては、建築の基本分野となる建築設計、建築施工全般などに加えて、資源や環境の保全、持続可能なまちづくりや都市再生、防災、高齢社会に対応した生活環境づくりなど、いわゆる工学分野の建築学には含まれてこなかった幅広い専門分野を想定している。

さらに、本学大学院進学により、多様な研究分野が同じ学部の中に共存しているメリットを最大限に活かしながら、学生自身が複合的な新しい発想に基づく研究領域の創造を積極的に進めることを期待している。こうして、学生は新しい得意分野の位置づけを確立しながら、専門性を高めることを目指せるだろう。

《2018年度(平成30年度)入学生用》

建築学部

各 学 科 共 通

- 【A群】
総合教育科目
- a) 総合文化科目
 - b) 自然科学系科目
 - c) 外国語科目
 - d) 保健体育科目
 - e) 自由研究科目
 - f) キャリア支援科目

【A群】総合教育科目

a) 総合文化科目

本学は工科大学であるが、すべての学問と同じく、工学もそれだけで独立したものではなく、他のさまざまな学問や、歴史や社会との複雑な関連の中ではじめて成り立つ。とりわけ今日では、科学技術や産業のあり方について、さまざまな角度からの再検討、再評価がおこなわれ、全人類的な視野に立った新しい展望の開拓が期待されている。したがって大学に学ぶ者は、狭い意味での専門分野だけではなく、できるだけ多くの学問分野に触れることが望まれる。広い知識、多様な関心、柔軟な感性こそが、専門領域での真に創造的な仕事や、現実社会での的確な判断力、責任ある態度を生み出すのである。

総合文化科目は、このような意味で専門教育を外側から支え、研究者として、技術者として、社会人として、できるだけゆたかな可能性と創造性をもった人間の形成に役立つことをめざして開設される。まず1年次の「建築ロジカルライティングⅠ」「建築ロジカルライティングⅡ」「総合文化アカデミックスキル」では、大学生としての主体的な学びを実践してゆくために必要不可欠な力を身につけ、将来を見据えつつ自らのアイデンティティの確立をはかってゆく。また、「美術A」「美術B」では建築を学ぶために必要なデッサン力、イメージ表現力を理論と実技の両面から身につけてゆく。さらに2年生以降、いわゆる人文科学、社会科学を中心として、広大な「知」の世界への入口となるよう集められた科目群の中から、自らの意志で科目を選択し、学びを深めてゆくことになる。

b) 自然科学系科目

現代の科学技術は自然科学の大きな体系の上に成立している。科学技術の深い内容を理解するためには、自然科学との関係を十分に知ることが重要であり、その自然科学の基礎について勉強する。基礎・教養科の教員が責任を持って教育にあたる。

講義科目の「微分積分」、「物理」、「化学」、「生物」はどのような分野に進む人にとっても重要な基礎知識である。これらについて広い視野を持つことは、各人が独自の道を切り開く上で大きな力になると信ずる。単に道具として理解するのではなく、自然現象をどのように捉え、表現しようとしているのか、また結果としてどんな描像を得ているかを理解してもらいたいと考えている。

(科目名に「数学」とついた科目はないので実際の科目名にする方がよいかもしれません。「線形代数」は建築学部の

自然科学系科目ではありません。)

また、現代を生きていく上で不可欠となったコンピュータの基礎について学ぶ「情報処理入門」、「建築情報処理基礎」が用意しており、これをマスターしてのち、さらに専門的な知識を身につけて欲しい。

c) 外国語科目

新しい国際化時代に対応し、幅のあるコミュニケーション技能を養うために、体系的かつ柔軟性を持たせたカリキュラムを編成している。

具体的には、卒業条件の8単位のうち、6単位は必修英語の科目で取得し、残り2単位は選択必修の科目から取得する。

必修の英語科目は、総合的な力を養うべく、言語諸技能の有機的な教育を目指す。それぞれ次のように重点を置いている。つまり、「Basic English I/II」では英語でたくさんinputを得る活動(listening・reading)に重点をおき、コミュニケーションの基礎となる語彙・文法・構文の習得を目指す。「Basic Communication I/II」は英語のoutputの活動(プレゼンテーションやレポート作成等)を通して、総合的に英語コミュニケーション能力を伸ばすことを目標としている。「Basic Academic English I/II」では、さらに総合的英語コミュニケーション能力の育成を目指し、英語による受信型・発信型両方のコミュニケーションスキルを養う。

選択必修科目には、「応用英語」としてIntensive English Course(夏期語学研修←または春期語学研修)・Communicative English(コミュニケーション英語)・Mass Communication English・TOEICの英語研究等を設置し、学生の積極的履修を求めている。即戦力となるような英語コミュニケーションスキルをつけたい人は新宿校舎で開講されているPresentation in English、Writing in English、Communication in Englishなどの科目にも挑戦してもらいたい。また第二外国語として「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「中国語集中講座」・「ロシア語」、また日本語を母国語としない学生のためには「日本語」を設置している。

情報化時代の中で、外国語運用能力の重要性はますます高まってきている。積極的な語学学習の場としてもらいたい。

d) 保健体育科目

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催が決定し、世代や人種を超えた交流や地域社会の活性化など、スポーツの持つ多くの潜在的な力に注目が集まっている。身体を動かすことは、健全な発育や心身の健康の保持増進に必要不可欠な行動である。しかし近年は、社会環境の変化によって身体活動の機会が失われている。これからは、自らの生活に主体的に運動やスポーツを取り入れていく能力を身に付ける必要がある。

定期的な運動は、生活習慣病や筋肉、骨、関節といった運動器の障害を予防し、ストレスの軽減をもたらす。また、自己の内面を観察し、心身のバランスを整える能力を高める。さらに、運動を通して個における忍耐力やあきらめない心、グループにおける協調性や優しさを学ぶことにより、コミュニケーション能力を高め、活力あふれる社会人になることが期待できる。

そして、楽しく安全にスポーツを行う基本的知識(ウォームアップ、クールダウン、水分補給等)や健康管理(栄養、睡眠、飲酒等)について理解することは、これから始まる大学生活を有意義に送るための基盤となる。さらにスポーツや武道を、身体運動文化として学ぶことで、海外の人々とスポーツを通じたコミュニケーションが可能となるであろう。

以上の意義において保健体育科目を設置するものである。(詳細は「保健体育科目履修の手引」を参照)

e) 自由研究科目

カリキュラムは学問の体系を踏まえて構成される。しかし、それらは歴史的な発展過程を反映した便宜的なものに過ぎない。我々の対象とする世界は、もっと広く相互に重なりあい、学問の境界は曖昧である。そのような視点から、柔軟な発想でテーマを設定し通常の授業とは違った味付けで、少人数教育を試みるのがこの科目である。諸君の興味のおもむくまま、実験を通し、あるいは原書講読を通して、学ぶことの楽しみをくみ取って欲しいと考えている。豊富なメニューが用意してあるので、積極的に参加し、通常の講義では得られない体験を積んで欲しい。この科目群で履修した単位も、卒業に必要な単位に算入される。

f) キャリア支援科目

大学で学んだことを社会で生かしていくためには、在学中から将来を見据え、自分自身の資質・能力を向上させてゆくことが大切である。2年生後期に受講できる「キャリアデザイン」は、企業講演等を通して自らの職業観を醸成させると共に、社会と接する際に必要となる自己表現力等の能力を身につけることを目標としている。また、この科目は3年次開講科目である「学外研修」(インターンシップ)の導入科目としても位置づけられている。

建築学部 総合教育科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は履修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に●印または▲印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。備考も参照すること。

1) 総合文化科目 (第A群a)

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授業 形態	教職	学位授与の方針				備 考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	△ 建築ロジカルライティングⅠ	2						2	講義		○	
△ 建築ロジカルライティングⅡ		2			2	講義		○		◎	○	
△ 総合文化アカデミックスキル	2または2				2	講義		○		◎	○	
△ 哲学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 哲学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 倫理学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 倫理学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 宗教学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 宗教学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 心理学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 心理学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 教育学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 教育学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 歴史学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 歴史学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 法学A (日本国憲法1単位を含む)		2	2	2	2	講義	▲	○		○	◎	
△ 法学B (日本国憲法1単位を含む)			2	2	2	講義	▲	○		○	◎	
△ 政治学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 政治学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 経済学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 経済学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 環境経済学			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 経営学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 経営学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 社会学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 社会学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 社会思想A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 社会思想B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 国際関係論A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 国際関係論B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 文学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 文学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 美術A	2		2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 美術B		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 芸術学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 芸術学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 論理学A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 論理学B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 現代文化論A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 現代文化論B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 科学論A		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 科学論B			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 身体健康学		2	2	2	2	講義		○		○	◎	
△ スポーツ科学			2	2	2	講義		○		○	◎	
△ 日本国憲法			2または2	2または2	2または2	講義	▲	○		○	◎	

【A群】 a) 総合文化教育科目

建築学部 総合教育科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必履修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に●印または▲印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。備考も参照すること。

2) 自然科学系科目〈A群b)〉

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授業 形態	教職	学位授与の方針				備 考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	△ 基礎数学	2						2	講義		◎	
△ 微分積分 I	2または2				2	講義	●数学	◎				
△ 微分積分 II		2または2			2	講義	●数学	◎				
△ 物理学概論 A	2				2	講義		◎				
△ 物理学概論 B		2または2			2	講義		◎				
△ 現代の物理学			2または2		2	講義		◎				
△ 化学概論	2				2	講義		◎				
△ 化学研究法		2または2			2	講義		◎				
△ 現代の化学			2		2	講義		◎				
△ 情報処理入門	2				2	講義	●	◎		○		
△ 建築情報処理基礎			2		2	講義	●数学	◎		○		
△ 生物学概論		2または2			2	講義		◎				

3) 外国語科目〈A群c)〉

授 業 科 目	単位数および標準履修学年					授業 形態	教職	学位授与の方針				備 考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	○ Basic English I	1						1	演習	●	○	
○ Basic English II		1			1	演習	●	○		◎		
○ Basic Communication I	1				1	演習	●	○		◎		
○ Basic Communication II		1			1	演習	●	○		◎		
○ Basic Academic English I			1		1	演習	●	○		◎		
○ Basic Academic English II				1	1	演習	●	○		◎		
△ Intensive English Course	2	2	2	2	2	演習		○		◎		夏期集中または春期集中
△ Presentation in English Basic I			1	1	1	演習		○		◎		
△ Presentation in English Basic II				1	1	演習		○		◎		
△ Presentation in English Advanced I			1	1	1	演習		○		◎		
△ Presentation in English Advanced II				1	1	演習		○		◎		
△ Writing in English Basic I	1	1	1	1	1	演習		○		◎		
△ Writing in English Basic II		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ Writing in English Advanced I			1	1	1	演習		○		◎		
△ Writing in English Advanced II				1	1	演習		○		◎		
△ Communication in English Basic I			1	1	1	演習		○		◎		
△ Communication in English Basic II				1	1	演習		○		◎		
△ Communication in English Advanced I			1	1	1	演習		○		◎		
△ Communication in English Advanced II				1	1	演習		○		◎		
△ Critical Reading			1		1	演習		○		◎		
△ Reading for Discussion				1	1	演習		○		◎		
△ Technology in Society				1	1	演習		○		◎		
△ Cultural Systems			1		1	演習		○		◎		
△ Globalization				1	1	演習		○		◎		
△ English Lecture Series/Workshops				1	1	演習		○		◎		
△ Conducting, Writing, and Presenting Reseach in English					1	1	演習	○		◎		

建築学部 総合教育科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必履修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に●印または▲印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。備考も参照すること。

3) 外国語科目〈A群c)〉

授業科目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	【A群】 総合教育科目 外国語科目 c)											
△ ドイツ語初級I	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ ドイツ語初級II	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ ドイツ語中級A		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ ドイツ語中級B		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ フランス語初級I	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ フランス語初級II	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ フランス語中級A		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ フランス語中級B		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ 中国語初級I	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ 中国語初級II	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ 中国語中級A		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ 中国語中級B		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ 中国語集中講座A	1	1	1	1	1	演習		○		◎	夏期集中または春期集中	
△ 中国語集中講座B	1	1	1	1	1	演習		○		◎	夏期集中または春期集中	
△ ロシア語初級I	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ ロシア語初級II	1または1	1または1	1または1	1または1	1	演習		○		◎		
△ ロシア語中級A		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ ロシア語中級B		1	1	1	1	演習		○		◎		
△ 日本語中級I	1				1	演習		○		◎		
△ 日本語中級II	1				1	演習		○		◎		

4) 保健体育科目〈A群d)〉

授業科目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	【A群】 総合教育科目 保健体育科目 d)											
○ 身体・運動科学演習 I	1				1	演習	●	○		○	◎	
○ 身体・運動科学演習 II	1				1	演習	●	○		○	◎	
生涯スポーツA		1または1	1または1	1または1	1	演習		○		○	◎	
生涯スポーツB		1または1	1または1	1または1	1	演習		○		○	◎	
生涯スポーツC			1または1	1または1	1	演習		○		○	◎	

5) 自由研究科目〈A群e)〉

授業科目	単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備考
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4	
	【第I群】 総合教育科目 自由研究科目 e)											
歴史と人物	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
都市文化研究	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
哲学書を読む	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
科学技術と倫理を考える	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
国際問題の学際的研究	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
現代社会論	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
比較社会文化研究	4	4	4	4	4	講義		○		◎	○	
経済学説の研究	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
ロジカルライティング I	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
ロジカルライティング II	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
英語によるメディア研究とビデオ制作	4	4	4	4	4	講義		○		◎	○	
英検準一級・二級の英語研究	4	4	4	4	4	講義		○		◎	○	
アメリカ言語文化事情	4	4	4	4	4	講義		○		◎	○	
現代物理の世界	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
教師としての実践的力量的形成			2	2	2	講義		○		◎	○	
教育者のための遊びの指導法	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
教育実践記録を読む	2	2			2	講義		○		◎	○	
教育問題を考える	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
機械の技術史	2	2			2	講義		○		◎	○	
複雑系の科学	2	2	2	2	2	講義		○		◎	○	
ロシア語で学ぶ理工学			2	2	2	講義		○		◎	○	

建築学部 総合教育科目

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必履修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に●印または▲印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。備考も参照すること。

6) キャリア支援科目〈A群f〉

授 業 科 目			単位数および標準履修学年					授業形態	教職	学位授与の方針				備 考	
			第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	計			1	2	3	4		
【A群】	総合教育科目	f) キャリア支援科目	キャリアデザイン		2			2	講義		○		◎	○	集中 集中
			日本経済分析入門			2または2	2または2	2	講義		○		○	◎	
			事業運営の基礎知識			2または2	2または2	2	講義		○		○	◎	
			中国の社会と文化			2または2	2または2	2	講義		○		○	◎	
			インターンシップA	1	1			1	実習				○	◎	
			インターンシップB	2	2			2	実習				○	◎	